

乳幼児医療費
助成の拡大など

市民の要望が実現しました

市議会で 明らかになった 市政の問題

阿部市長の「行革」が1年を経て初めての決算。阿部市長は予算の「選択と集中」で予定より144億円も多く節約できたと自賛しています。市民の暮らしにどのような影響をおよぼしているのでしょうか。市民の目線で問題点をさぐってみます。

生活道路・公園の 維持補修費が足りない

「生活道路の補修を頼んでも、予算がないからとなかなかやってくれない」「荒れ放題の公園の整備にもいまだに手がつけられない」と、住民からの苦情が8,760件も寄せられています。市の担当職員も電話が鳴るたびに「ドキリ」としながら対応に追われています。

増えるゴミの 不法投棄

「雑金属類の定期収集」がなくなり、「申し込み制」としたため、不法投棄が増え、住民から苦情が殺到しています。

切実な私立幼稚園の 保育料の補助引き上げ要望

私立幼稚園の保育料が若い父母の家計を苦しめています。川崎市は、公立幼稚園を廃止する際、私立幼稚園の保育料の助成拡充を約束しており、早急な増額が求められています。

敬老パス有料化で 買い物客減った

7月から始まった敬老パス有料化で、外出を控えはじめたお年寄りも。地域の商店主も敬老パス有料化後、「お年寄りの買い物客がだいぶ減っています」とこぼしています。

中学校のランチサービスに 生徒がそっぽ

公費負担はゼロ。一食400円全額が父母負担となったランチサービスの申込み率は全市でなんと生徒数の10.5%。量も質も変わり、結局弁当持参に。親も子どもも業者も困っています。

来年1月から

乳幼児の医療費助成が
4歳から5歳に
拡がります

さらに就学前まで検討へ

子どもの医療費の負担軽減は切実な願いです。

せめて小学校へあがるまで助成をという市民からのねばり強い運動と日本共産党の議会質問などが実を結び、所得制限はありますが、来年1月から五歳児まで助成が拡大されることになりました。

川崎市は就学前までの拡充についても検討を約束しており、所得制限の撤廃を含め、ひきつづき声を上げていくことが必要です。

日本共産党が一貫して要求

阿部市政の二年間で、私たちのくらしはよくなったのでしょうか。国の「構造改革」と歩調を合わせた阿部市長の「行革」で、「公平」「平等」の名のもとに「公的サービス」を所得に関係なく受益者負担への転換で、市民のなかに戸惑いと新たな不安が生じています。市内の商店街や中小零細企業対策よりも新たな臨海部開発への布石が着々と打たれています。



わくわく プラザ

スタッフフリーダーの
複数配置を急いで

事業開始から二年目。相次ぐ事故や、ス

タフ体制の不備が指摘されている「わくわくプラザ」。子どもが安全・安心な放課後を過ごせるためには、スタッフフリーダーの常時複数配置をとる要望は切実です。九月市議会でようやく「検討」との答弁が。障害児への専門性を持った職員の研修についても、早い時期に解決したいとしています。

やっとここまで

川崎市が教育プランで
35人以下学級を検討

今後3年間で具体化

子どもたちの基礎学力を育てるうえで効果があるとして、世界でも日本全国でも流れとなっている少人数学級。川崎市でも今年四月から十一校で三五人学級が試行され父母から大変喜ばれています。

日本共産党市議団は、一億円あればすべての小学校の一年生で三五人学級が実現できると指摘し、実現を迫っていました。策定中の「かわさき教育プラン」の素案に、ようやく、小学校一年生における三五人以下学級等の推進」が盛り込まれました。

住民要望の
実現にさらに
全力つくします



宮前区
石川 けんじ



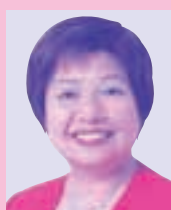
高津区
西村 英二



中原区
市古 てるみ



川崎区
佐野 よしあき



多摩区
井口 まみ



高津区
石田 和子



中原区
徳竹 きよし



幸区
ちくま 幸一

第161号 2004年11月
日本共産党川崎市議員団
日本共産党川崎市委員会
川崎市川崎区榎町6-5-101 ☎ 211-3731

